

■着込まず防寒が最適解■

例え豪雪の中でも快適に過ごせる高性能な防寒着でも、コミケットの環境に適しているとは限らない。特にチケット制となり待機時間そのものが短縮された現在、寒さに耐えて並ぶ時間よりも、ホール内を移動する時間の方が長くなる傾向にある。重厚な防寒着を着込み、大きな荷物を持って混んだホールや交通機関に入り込めば、寒いよりもかえって暑い、動きにくいということの方が問題になる。

特に冬は汗をかいて屋外に出ると身体が急激に冷えて体調を崩しやすくなるため、できるだけ汗をかかないこと、かいた汗を肌着に残さないことも重要だ。

寒い場所ではちょっと寒い、暑い場所でもちょっと暑い、くらいの中間的なウェアを選び、あとは環境に応じてオプションで調整するのが、コミケット参加ウェアの正解だ。

ただし、大手サークルや企業の購入待機列に長時間並ぶことが前もって分かっている参加者、あるいはずっと自スペースに滞在するサークル参加者は、むしろ甘く見ずにしっかりした防寒着や携帯座布団、ひざ掛けなどの十分な防寒装備を用意しておこう。

●内×外×オプション＝防寒力

防寒で最も大切なのは、いかに身体の表面と着衣の間に暖かくドライな空気を留めておけるか、ということ。汗でも雨でも濡れればその機能は失われてしまう。身体からの汗と外部からの雨などの水分を除去し、その暖かくドライな空気を保護すること、肌が外気に直接触れると体温を奪われるのを防ぐこと。この2点が正しく機能していれば、やたらと厚着をする必要はないのだ。

●内：インナーウェア

昨今アンダーウェアの進歩は目覚ましく、夏用同様に薄手で速乾性に優れ、保温性の高い高機能冬用アンダーウェアがリーズナブルに入手できる。是非上下セットで導入したい。

薄手の上着に匹敵する保温力がある。

●外：上着／ボトム

男女で多少最適解は異なるが、共通なのは、ジーンズ地など綿100%のウェアは極力避けるべきということ、そして上着は腰を覆える長めの丈があり、できる限り軽いものが望ましい。

風が吹くと体感気温が著しく下がるので、防風性能があるものかは必ず事前にチェックしておこう。

しっかりめに防水スプレーを吹き付けておくとより安心。

●オプション ：帽子・手袋・マフラーなど

着衣を防寒より機動力重視にした分はオプション防寒具で補おう。屋外待機の際はこれらを身に付けて外気に体温を奪われるのを防ぐのだ。

耳あて、マフラー、手袋、ネックゲイター、カイロ、ストールなど、様々なものがあるので、選ぶのもまた楽しい。

ただしこれらのグッズは外してポケットなどに入れておくと、いつの間にか落として紛失しやすい。使わないときはバッグに付けたポーチや巾着袋に即押し込むなど、失くさないための工夫が必要かもしれない。

